

ONE BRAND

◆ONE LOVE INTERVIEW

クリス智子

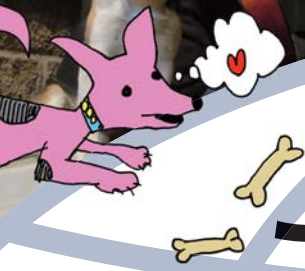
[ラジオパーソナリティ, タレント]

vol. 42



世界の国から
こんにちはワン!
WORLD TRIP WITH DOGS





世界の国から

Let's go!!!

こんにちワン!

WORLD TRIP WITH DOGS

今回は日本を飛び出して、海外の犬事情を探ります！ いったい、世界中で人は犬とどんな生活をしているんだろう？

教えてくれるのは、連載でもおなじみ、写真家の鰐部マリエさんと、海外在住の人気ブロガーの皆さん。

世界各国、さまざまな犬との暮らし。文化やルールは違えど、それでも共通するのは犬が好きってこと。

ほのぼのしたり、ビックリしたり、共感したり。どうぞ世界中に想像をめぐらせて、ゆっくり楽しんでください。





ベトナム/サバ



インド/ゴア



インド/アンダマン諸島

会った人と犬たち by 鰐部マリエ

島の草原、タイの寺院、インドの路上、各地で会った人と犬たちのお話です。

2007年の春、私はアメリカとメキシコの国境沿いの町にいた。アメリカなのに英語よりもスペイン語が沢山聞こえるその場所に私はバックパックを足下に置きながら、一人ベンチに座ってメキシコシティー行きバスを待っていた。バスを待っている間、アナウンサーが全く何を言っているのか分からなくて、何本ものバスを乗り過ぎた。：。「ああ、いつになったらここから出発出来るんだろう。：。」困りきった私は、日本からのホームシックも重なってバスターミナルのベンチでしょんぼりしていると、一頭の野良犬が尻尾を振りながら近寄って来た。人懐っこいその犬を触っているとなんだかすごく元気をもらって、一人旅の寂しさがずいぶん癒されたのを覚えている。

世界各地を旅行しながら私は至る所でそんな人懐っこい野良犬たちと出会った。メキシコのビーチで寝転んでいると、ゆっくり歩きながら近寄ってきて突然私の隣で昼寝を始めたビーカー犬。イースター島のモアイ像を見ながらぼーっとしていると、遠くから駆け足で尻尾を思いっきり振りながら近寄ってお腹を見せて甘えてきたモアイ犬。治安の悪い南米の夜、レストランからの帰り道、近所のホテルまで私を送ってくれたボリビアで出会ったエスコート犬。旅人同士の早口な英語が飛び交う中、なかなか会話に入れず寂しい思いをしていた時に出会った癒し犬などなど。人間は使う言語が違うとそれだけで言葉の壁というものが出てしまうけれど、犬たちは人間と違って、どこの国の犬とか全く関係なくすぐに仲良くなれた。そんなことから気がつくとなんか撮影するために持って行ったカメラはいつも犬の写真でいっぱいだった。

でも、犬も可愛い面だけじゃなくて、怖い面にも何度か遭遇した。キューバの田舎町を旅行していた時、何頭もの野犬が集まって一頭の倒れた犬を食べているところを見た。普段は人懐っこいイースター島の犬たちが、殺気立った声を出しながらまるで野生のオオカミのような目つきで一頭の子馬を囲んで襲おうとしていた場面も見かけ、



チリ/イースター島



インド/アグラ



チリ/サンティアゴ



インド/ヒマラヤ山脈上空



山で、河で、街角で。旅で出

中南米からアジアまで、世界各国を撮影してまわった罎部マリエさん。イースター

た。それにアジアを旅行中、タイとインドで野犬に追いかけてられて、とても怖い思いをした。特にタイで出会った3頭の犬たちは、一瞬目が合った瞬間私が「怖い」と感じたのを察したのか、突然吠えながら私めがけて走ってきた。とっさに下に落ちていた小さな石ころを拾って「わーっ!」と叫びながら野犬めがけて石を投げて彼らを追い払ったのだけれど、調子に乗りながら至る所で犬を触って旅をしていた私は、それ以来むやみに野良犬に触れなくなるトラウマが出来た。南米からアジアを経由しながら日本へ向かう東周りの世界旅行は、野良犬の可愛さと怖さを両方知る旅でもあった。

そして去年、チリ人の夫と約25万頭という大量の野良犬たちが住む南米チリの首都、サンティアゴに移住した。サンティアゴに住む野良犬たちは、地域の人達に段ボールの家を作ってもらったり、ご飯をもらったり、公園の芝生で子どもと一緒に遊んだり、地域の人々からかわいがられている。だからなのか、目が合うと、耳を後ろに倒



インド/アンダマン諸島

して尻尾を振りながら「撫でて、撫でて〜!」と近寄ってくる犬も多い。しかし人懐っこい犬が多いサンティアゴでも人を噛んで問題になることも多く、野良犬に対する考え方は色々だ。チリ人の中には、「犬は狭いアパートで窮屈に暮らすのなら外で自由に生きる方が彼らにとつて幸せな生き方なんだ」と言う人もいるし、「野良犬は人に危害を及ぼす場合もあるし路上で生きる犬は幸せではない」といった考え方もある。それにチリの政府は野良犬を捕獲して殺処分している現状だつてある。

処分されてしまうのか、飼い主が見つかって誰かの飼い犬になるのか、それとも餌を探しながらも自由に外で生きるのか。世界各地様々な考え方を持った人々がいるのと同時に、犬たちの運命はそれぞれ地域の人の考えに委ねられて生きている様に見える。そんな、人間たちが考えていることなんて全く分からない犬たちは、世界のあちこちで今日も一生懸命この一瞬一瞬を生きているのだ。

罎部マリエ Wanibe Marie / 写真家
『罎部マリエ / 電子書籍『地球から10cm』
iOS アプリケーション『BUKUMO』で販売中!』
※写真の一部を同『地球から10cm』より引用しています



インド/ウダイプル



ペルー/ウルバンバ(マチュピチュ)



インド/バラナシ



Canada

広大な施設が贅沢。人も犬も心地よく



サイドウォーク（車道と分離された遊歩道）や近所の自然公園など、住宅地にも緑がいっぱい。芝生が広がる犬専用の公園は、最低でも400mトラック1周分はあるとか。大きな犬たちののびのび。



国際結婚をして、2004年にカナダへ移り住む。現在、オンタリオ州ロンドンに在住。愛犬のタイタス（7歳、チンとジャックラッセルテリアのミックス）とカナダ人の夫との日々の暮らし&面白体験をブログに更新中。

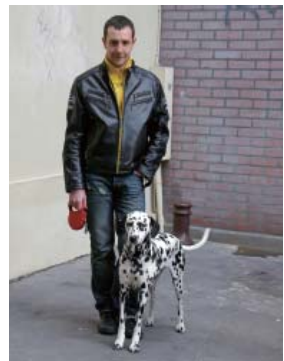
巨大なオフリッシュパーク(犬専用の公園)や人間用とは別に仕切られた犬専用のドッグビーチなど、カナダには自然のなかで思いっきり遊べる施設がいろいろあるそう。そこでは犬と野生動物が遭遇、なんてこともしばしば。
「そこら中に出没するリスを追いかけたり、野ウサギやスカンク、ときにはアライグマとにらみ合っていたりも(笑)。公道での散歩はリード着用が義務なんです。広い公園で人が少ないときにはオフリードで好き勝手に遊ばせてる人が多いです。人も犬も日本ほど密集していないので、モメ事にはならないですよ。みんな大らかというか、なあなあというか(笑)。室内でのしつけはしっかりされている場合が多いです。人と犬をハッキリ区別して考えている、という感じですね」
また、寄付を目的としたチャリティイベントも盛んに行われているそう。「本当にたくさんさんの愛犬家と犬とが参加していますよ。集まった寄付金は、犬専用の公園を作ったり、シエルターでの飼育費などに充てられています」

公園もビーチも犬専用！
犬にも優しい大らかさ



France

パリの街を、犬を連れてどこへでも！



「どこにでも連れて行けるので、わざわざ犬のために出かけることはないです」というパリでの暮らし。普通の広場や公園でもオフリードで遊んでしまうため、ドッグランはないのだとか。



とのまりこ

パリを拠点に活動するヘアメイク&フォトエッセイスト。ガイドブックシリーズの執筆を手掛けるなど、著書も多数。愛犬はヨークシャーテリア(オス8歳)のバブー。日本ではフランス雑貨のイベントを開催。

「犬と一緒に大抵どこへでも行ける」というフランス。大都会のパリでも、カフェやレストラン、ホテル、メトロ口にだって犬が乗るといふから、驚き。「公共交通機関ではカバンに入れるというルールがあるんですが、ほとんどの人が守っていません(笑)。店舗やレストランは犬連れOKが当たり前。入店NGの場合だけ看板があるんです」
細かいことは気にせず、犬を自分たちの生活に迎え入れるだけ。犬連れで行動が制限されることはないそう。
「パリには一軒家がほとんどないので、アパルトマンでも飼いやすい小型犬がほとんど。犬好きが多いけど、血統は一切気にかけないし、雑種犬だけです(笑)。犬に限らず、ブランドのステイタスを気にしないんですよ。それから、小さな女の子とおばあちゃんと同じ文房具を使うくらいに新商品がない国なので、ペット用品がスラリと店舗に並ぶなんて、まずありません。たとえあっても、イケてないし、高い(笑)。洋服や便利グッズはやっぱり日本のクオリティが高いなと思います」

細かいことは気にしない!? 「犬好き」なフランス人たち



New Zealand

大自然を犬と遊ぶ、ワイルドライフ！



ニュージーランドが世界に誇る、まさに絶景！ 湖での水遊び、森でのブッシュ・ウォーク、この雄大な自然のなかをノーリードで走りまわられるなんて。



マーティンゆう

2001年よりニュージーランド在住。2頭の愛犬、ゴールデンレトリバーのクロエ（メス11歳）とエビス（オス9歳）との日常を綴った人気ブログは書籍化も2冊目に。現在は、ニュージーランド南島で田舎暮らしを満喫中。

「私の住んでいるところは田舎なので、ほとんどの犬がオフリードで走りまわっています」と、犬を取り巻く環境に恵まれているニュージーランド。大型犬、しかも圧倒的にラブラドルレトリバーが人気なのだから。
「湖でカヤックに乗ったり、森でキャンプや探検（ブッシュ・ウォーク）を楽しんだり、ニュージーランドの人はアウトドアスポーツに熱心。犬はその相棒です。この辺りは狩りも盛んなので、ガンダッグとしてトレーニングされたレトリバーやポインター、スパニエルもよく見かけますよ。主従関係がしっかりしていて、接し方は日本よりもドライな印象でしょうか。私みたいに家の中でも犬たちの自由にさせていると、甘やかし過ぎていわれちゃつ（笑）」
畜産・酪農を主要産業とするこの国ならではのルールもあるそう。
「飼い犬が牧場の動物を脅かすと、牧場主が銃殺してもいいという法律があります。でもオフリードの犬が多いので、呼び戻しなど、家畜を追いかけないようしつづけることが当たり前なんですよ」



USA

まるでバカンス！ 犬もビーチで波乗り



ハワイといえば、やっぱりビーチ！ 青空の下で泳いだり、砂浜でボール投げをしたり、人も犬も、のんびり気ままに。



名犬ゆか

ハワイ在住11年目。犬と一緒にハワイ生活に慣れて移住し、今ではアニマルレスキューの一時預かりボランティアとして活動中。常に5頭以上の犬と暮らしながらアロハライフを楽しむ。現在は、6頭の犬たちとともに生活。

「家族みんなでのんびり自然と触れ合うのが、ハワイの週末の風景。トレッキングやビーチ遊びに犬も一緒に出かけます。波の静かなビーチでは、犬も口でボードに乗っていますよ（笑）」
波乗りとは、さすがローカルの犬たちです！ でも、こんな心配事も。
「ペット医療が最新じゃないこと。小さな島なので、日本では当たり前前の治療さえ行なえる病院が少ないんです。費用も高額。だからこそ日常ケアに気を使っている人が多いですね。グルーミングやトリミングもこまめに。一年中サマーカットのコがいます（笑）」
ドッグパーク以外の公道でのオフリードは禁止されていて、10分以上の無駄吠えは罰金対象になるのだとか。
「動物愛護が浸透しているので、犬を守るルールがしっかりしていると思います。犬を飼うときにシエルターから引き取るの是一般的だし、そもそもハワイでは純血種の頭数が少なく、手に入りにくいので、雑種犬もたくさんいます。雑種犬はハワイで poi dog と呼ばれ、とても愛されているんですよ」

ONE LOVEプロジェクトは

犬の殺処分をなくし、 人と犬との明るい未来をつくる プロジェクトです



人と犬がもっと豊かに暮らせる社会をめざしている
ONE BRANDでは、1頭でも多くの犬の命を救うために、
2008年より動物保護団体への寄付、情報発信による啓発、
保護犬の譲渡支援を行なう「ONE LOVEプロジェクト」を
実施しています。ONE LOVEプロジェクトは、
「できることから始めよう!」をモットーに、
犬を愛するみなさんに参加いただくことで、
幸せな犬たちを増やしています。



87,119

頭

保健所に收容される
犬の数

(平成 22年環境省発表)

【收容される理由】

- 捨てられた犬や迷子犬を保護
- 無責任な飼い主の飼育放棄による持ち込み
- 動物取扱業者による持ち込み

61

%

殺処分される
犬のパーセントと数

- 元の飼い主のもとに戻れなかった犬
- 動物保護団体にレスキューされなかった犬
- 新しい飼い主に譲渡されなかった犬

53,268

頭



殺処分される犬を減らすためには、
保健所に收容された犬を引き取り新しい飼い主を探している、
動物保護団体を支援していくこと。
そして、「犬を飼おう」と考えた時に
「保護犬」を選択する人を増やすために、認知を広める必要があります。

今すぐ、できることから始めませんか？

今すぐ参加できる寄付・啓発・支援



- ONE LOVEサポーター会費
- ONE LOVEグッズの売上
- 協賛企業・賛同者からの寄付金から毎月、動物保護団体に寄付しています。



ONE LOVEプロジェクト事務局



動物保護団体
12団体
(2012年12月現在)

ONE LOVE
プロジェクト
啓発活動費

ONE LOVE プロジェクトでは、一定の審査を行なった信頼のおける動物保護団体に、長期にわたり定期的に行える寄付支援をしています。

誰でもできる 月1,000円からのサポート

～ ONE LOVEサポーター～

保護犬をレスキューする動物保護団体への寄付や、犬たちが置かれた現状をより多くの方々へ啓発していく活動を支援して下さる「ONE LOVEサポーター」を募集しています。あなたもできることから始めませんか？

●サポーターには・・・

- ①『ONE BRAND』マガジンを奇数月にお届け
- ②サポーター会報誌を偶数月にお届け
- ③ONE LOVE会員カードの発行
- ④ONE LOVEメールマガジン配信



ONE LOVEサポーターへのお申し込み、お問合せ

<http://www.onelove.cc>

☎03-5575-2363

※サポーター会費は1,000円から金額を選べます。
※現会員も金額の変更ができます。



携帯はこちら

お買い物でも サポートできます！

ONE BRAND Shopping (WEB) 内の全ての商品は、売上の一部が動物保護団体への寄付になります。

1頭でも多くの犬たちを救うために、楽しいショッピングは、ぜひONE BRAND Shoppingで！



迷子札

<http://www.obshopping.jp/>

☎03-5575-2363 10:00～17:00(土日、祝日を除く)



携帯はこちら

ONE LOVEプロジェクト 寄付先団体 (50音順)

※2012年12月末
現在

- NPO法人 ARK (アニマルレフュージ関西)
<http://www.arkbark.net/>
- 石川ドッグレスキュー
<http://dogrescuejp.net/>
- NPO法人 しっぽのなかま
<http://shippononakama.kuronowish.com/>
- ちばわん
<http://animal-note.cool.ne.jp/>
- 動物いのちの会いわて
<http://www.inochinokai.com/>
- Dog Shelter (ドッグシェルター)
<http://dogshelter.jp/>
- NPO法人 日本動物生命尊重的会
<http://www.npo-alis.org/>
- Happy Labs (ハッピーラズ)
<http://www.happylabs.jp/>
- PAK (Paws Adoption かながわ)
保健所の犬・猫を救う会
<http://homepage3.nifty.com/nazozen/>
- NPO法人 ペット里親会
<http://petsatooyakai.web.fc2.com/>
- NPO法人 保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会
<http://npo.seiken-joto.org/>
- NPO法人 Wonderful Dogs
<http://www.wonderful-dogs.com/>

4,653,518円

(2012年1月～11月)

これまでの寄付金総額

27,049,937円

(2008年4月22日～2012年11月末現在の累計)

寄付金の詳細については、ONE LOVEサイト内「寄付金の報告 donations report」をご覧ください。

<http://www.onelove.cc/>

ONE BRAND vol. **42**